

須田郡司・鎌田東二 写真展

「東日本大震災の記録と巨石文化の甦り」

7月30日～8月11日 at ささえ愛よろずクリニック待合室



◎**トークイベント**参加無料(オンライン配信あり)裏面ご参照

鎌田東二(宗教哲学者・京都大学名誉教授) × 須田郡司(巨石ハンター・写真家)

7月30日(土)オープニングトーク 16時～18時

「震災と東北巨石文化のカルマ」

8月11日(祝)クロージングトーク 10時～14時

「北陸の縄文巨石巡礼から銀河的再生の祈り」



©Gunji Suda



ささえ愛よろずケアタウン開設 10 周年企画第 2 弾をお贈りします。

7 月、8 月、そして 9 月のささえ愛よろず夏祭り(3 年ぶり)に向けて、皆さんと共にブースター効果でコロナ禍も吹き飛ばしていきましょう！

医療法人ささえ愛よろず理事長 今村達弥

もうご存知でしょう!?! はやぶさのように宇宙を駆ける巨石 = 小惑星に生命の源が宿されておりましたぞよ。やっぱり石はいのちの触媒なのです。人は、巨石に宇宙を感じいのちを感じ、そしてもちろん土に感応し、宇宙のノマドである自らを再確認するのでしょうか。ところが人類は地球の間借り人であるにもかかわらず勝手な領土を主張してまたぞろ殺傷地獄へはまっています。

那須の殺生石は割れました！ 天災の中に人災が隠されることがあります。人災(最悪の人災は戦争)を天災としてあきらめるわけにもいきません。東日本大震災はいまだに多くのことを我々に突きつけてやみません。

明治 29 年東北大震災の年に花巻(大谷翔平も生地)に生まれた宮沢賢治は、石を愛し郷土を愛し農民を愛し羅須地人協会という小さなユートピア活動を興しました。実は、数年で挫折したその活動こそ賢治が最もやりたかったことだとみなし、羅須地人協会を現代に蘇らせるべく始めたのが当ささえ愛よろずケアタウンなのです。

コロナ禍でほころびかけた人のつながりを再生(リカバリー)すべく、10 周年に慢心することなくフンドシをしめ替えしめ直しさらに地域へのご縁返しを続けさせていただく所存です。

この度、2 人のすばらしい導師をお招きし刺激的な時空間を共有したいと思いますので、ぜひ皆様のお越しをお待ちしております。尚、[zoom での参加希望の方は imatatu527@gmail.com](mailto:imatatu527@gmail.com) までご一報ください。(ミーティング ID: 878 6116 2885 パスコード: 422065)

講師紹介

須田郡司) 日本各地と世界中の聖なる石を撮影してきた巨石写真家。東日本大震災から 10 年あまり訪ね続けた東北被災地の写真と世界の巨石文化をテーマに各地で写真展を開催中。著書『石の声を聴け』

鎌田東二) 京都大学名誉教授。フリーランス神主、神道ソングライター。著書多数、『聖なる場所の記憶 日本という身体』『南方熊楠と宮沢賢治 日本のスピリチュアリティの系譜』『詩集 絶体絶命』ほか

